

Y.K. 社会システム学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

高校生の時に韓国の歌手を好きになったことがきっかけで、韓国語を話せるようになりたい、韓国の文化について詳しく知りたいと思うようになり、韓国留学を考え始めました。韓国への留学制度が整っている大学に通いたいという思いから同志社女子大学に進学し、休学することなく長期で留学することが出来る協定留学を目指しました。

② 留学を目指してから出願までの韓国語学習方法

高校生の時から自分で購入した韓国語の教材を使用し独学で勉強し始めました。大学に入学してからは1、2年生の時に韓国語の授業を履修し、授業と並行しながらハングル検定や韓国語能力試験の問題集や過去問題を解いて勉強していました。通学時間には小さめの単語帳で単語を覚えることも多かったです。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからも同じ方法で韓国語の勉強を続けていました。ビザの申請は各自で行わなければいけなかったため、自分の住んでいる地域を管轄している韓国大使館に直接電話を掛けて、必要書類を確認した上で後日申請しに行きました。その後1週間程度でビザ発行が完了しました。

④ 現地到着後

事前に空港への送迎希望を出していたので、仁川空港から現地の大学が用意して下さった送迎車で寮まで1時間半程かけて移動しました。寮に到着すると国際課の方から簡単な寮の説明と今後の予定についての確認がありました。最初の1週間は初日に説明を受けた予定に従って、寮のオリエンテーションや大学(語学堂)のオリエンテーションに参加しました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

語学堂の授業は50周年記念館で受けました。綺麗な大きい建物でスターバックスやコンビニ、パン屋さんなどがあり利用しやすかったです。寮からも徒歩10分程の距離に位置していたので移動がとても楽でした。

◆ 授業内容、課題、試験

1、2時間目は教科書を使った文法の授業でした。3時間目は副教材を使い読解の授業を受けていました。4時間目はことわざの勉強をしたりグループワークをしたりしていました。習った文法を使って簡単な会話文を作る課題や問題集を解く課題があり、単語テストやグループ・個人発表などもありました。試験は中間テストと期末試験の2回実施され、筆記と会

話の試験でした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

1号館と2号館で授業を受けていました。50周年記念館より寮から近く、カフェなどはありませんが、その分静かで落ち着いて授業を受けることができました。

◆ 履修科目

私は「大衆文化とファッション」と「ヘルスフィットネス」を履修していました。現地で仲良くなった友人や先輩方の意見やシラバスを参考に履修を決めました。

・大衆文化とファッション

年代ごとに映画や音楽、社会情勢などの影響を受けながら変化してきたファッションの特徴などについて学びました。

・ヘルスフィットネス

構内にあるジムで各トレーニング器具の使い方や正しいストレッチの方法、効果などを学びました。

◆ 授業、レポート、定期試験

・大衆文化とファッション

大人数で行う授業で、パワーポイントを使って行われていました。中間テストは筆記とレポート(パワーポイント)課題、期末テストはレポート(パワーポイント)の課題のみでした。

・ヘルスフィットネス

20人弱の少人数で行われ、中間テストは筆記試験、期末テストは実技試験でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブやボランティア活動に参加する機会はありませんでしたが、日語日文学科の学生と交流するプログラムと SWU Buddy に参加し、一緒に景福宮で韓服を着たり韓国料理を食べたりと課外活動を行いました。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

春・秋学期の間は国際生活館で生活しました。国際生活館は2人部屋で私のルームメイトは日本人でした。シャワー・トイレ、調理室、洗濯室などは共同で使っていました。長期休暇の間はシャロムハウスでの生活でした。シャロムハウスは4人部屋で申請の際にルームメイトの希望を出せた為、仲の良い友人と一緒に部屋を使っていました。シャロムハウスは各部屋にシャワー・トイレがあり、それ以外は共同でした。食事は基本的にシャロムハウスの1階にある食堂やコンビニでとっていました。どちらの寮も学校の敷地内にあるので教室までの移動が便利でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇の間は韓国人バディーの子や日本人、中国人の友人と出かけたり、数週間日本に帰

国したりして過ごしていました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

就職活動のサイトを利用して興味のある業界の企業について調べたり、日本から資格試験の教材を持って行って勉強していました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中は新しい友人がたくさんでき、一緒に授業を受けたり、チキンやトッポッキなどを頼んで一緒に食べたり、カフェで話し込んだり、各地で開催されている展示会を訪れてたくさん写真を撮ったりと毎日が楽しかったです。その中でも特に思い出に残っているのは、日語日文学科の総会に参加させてもらい、一緒に食事をしてクイズ大会や伝言ゲームをして交流したことです。日本と韓国の文化の違いやお互いの国の素敵な場所を紹介して色々なことについて話しました。日本や韓国にちなんだクイズ大会では1問正解することが出来てとても嬉しかったのを覚えています。耳栓をして音が聞こえない状態で、出来るだけ大きな声でヒントを出してペアの子にお題の単語を当ててもらおうというゲームもしました。実際にやるのも見るのもとても楽しいゲームで、本当に楽しい総会でした。私が韓国に興味を持って韓国語や韓国文化を勉強しているのと同じように、日本に興味を持って日本について勉強している人と交流出来たのは興味深く印象的でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中は日々の課題の多さに苦勞しました。また、中国人やその他の国のクラスメイトと韓国語で話す時、発音にお互いの国の言葉の訛りが出してしまうので上手く言葉を伝えるのが少し難しかったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

韓国人の学生はとても勤勉なので毎日深夜まで勉強したり、テスト前は図書館が24時間利用可能になることに驚きました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

ソウル女子大学は中心部から少し離れているので、中心部に出かけた際は早めに帰らないと寮の門限に間に合わないのは少し不便でしたが、その分、治安も良く静かで落ち着いた環境で生活することができました。大きくはありませんがスーパーや100円ショップも近くにあり、生活用品に困ることはありませんでした。学生一人一人へのサポートもしっかりして下さったので、寮の先生や国際課の方々をはじめ、困った時も相談に乗って助けてくれる方がたくさんいました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは授業の課題でパワーポイントやレポートを作らなければいけない機会も多く、私を含め他の留学生達も持参していました。日本の料理が食べなくなった時や食堂でご飯が食べられなかった時の為に、インスタントのお味噌汁やレトルト食品を持って行きました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

日本では実際に韓国語を使って会話する機会はほとんどなく、会話が苦手だったのですが、現地でできた友人との会話や語学堂で韓国語を話すことで、会話への苦手意識が無くなりました。そのおかげで、自分から意見を出したり話しかけたりすることが出来るようになり、自信や積極性、相手を理解しようとする姿勢を身につけることが出来たと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は不安に思うこともあると思いますが、新しい環境、文化の中で生活することで、自分の可能性を広げるきっかけをくれると思います。留学を通して色々なことに挑戦し、たくさんの人や考え方に出会った経験を、その先の人生に活かして頑張ってください！

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

将来は韓国留学での経験や韓国語を活かして、韓国や日本の観光を盛り上げる仕事をしたいと考えているので、それに向けて頑張ります。

V. 写真



寮で中国人の友人の誕生日会をした時に撮った写真です。誕生日プレゼントを渡してみんなで大きなケーキを食べました。



春学期の語学堂の修了式にクラスメイトと撮った写真です。みんなでお菓子を持ち寄り、映画を見てお互いにメッセージシートを書きました。



日語日文学科生との交流プログラムで韓服を着た時に景福宮で撮りました。私の班は日本人3人と韓国人4人でした。とても仲が良く、他にもカフェや食事に行ったりと色々な活動をしました。



SWU Buddy のバディーと寮でチキンを食べた時の写真です。2人とも同じ寮で暮らしていたので、寮のラウンジで色々な話をしました。